

新「古河市」誕生をまえに

本年9月12日、総和町・三和町との合併による新「古河市」が誕生します。現在の古河市は明治22年の市町村制施行のとき、古河・原・悪戸新田で古河町となり、その後、昭和25年に市制施行、同30年に新郷村と合併しました。今回の合併は50年ぶりとなります。

これにより新市は人口で約2.5倍、面積は一気に約6倍となります。

ところで、60年以上前の戦時中、永井三郎町長時代に1町5力村、すなわち古河町と新郷村そして現在の総和町の前身である4力村との合併が協議されましたが実現しませんでした。昭和30年の折は、まず県の計画に沿って新郷村・勝鹿村と合併し、さらに第2次合併として栃木県野木村との合併も計画されました。

さて総和町は昭和30年に勝鹿・桜井・香取・岡郷の4力村が合併して総和村が成立しました。この4力村の前身は江戸時代の村々が明治22年に合併したものです。そ



新郷村合併記念碑(中田公民館敷地内)

して昭和43年に町となりました。三和町は昭和30年に幸島・八俣・名崎村の3力村が合併して三和村が成立しました。この3力村も同様に江戸時代の村々が明治22年に合併したものです。昭和44年町制施行の折、三和町と名称を変更しました。

このような市町村合併は当地方に限らず、日本の近代化にあわせて全国的に明治22年と昭和30年代に行われ、平成の大合併は大きくは3回目といえます。

今回、古河市も長年の懸案であった合併が実現しましたが、明治以降それぞれの道を歩んできた各自治体の一つになることは、何かにつけ困難が予想されます。

そうしたとき、幸いにも時代をさかのぼると、この地域にはかつて長期間にわたって共通する歴史性がみえてきます。そこで今回は新古河市の共通基盤を古河公方を通してみていくことにしましょう。古河歴史博物館学芸員 鷲尾政市